

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
萩原 憲二, 村田 トオル, 林 富公子			
水2			
添付ファイル			

科目の概要	子ども期にふさわしい生活の展開や遊びを通した総合的な保育が重視される保育現場において、子どもの育ちを支えていくための遊びや生活をどのようにつくっていけばよいのかを、具体的な保育実践を通して学ぶ。また、保育者の役割や保育の内容についての理解を深め、保育者を目指す者としての資質向上を目指す。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション          &lt;内容&gt; 授業の概要や目標、具体的な授業内容を知る。          事前にシラバスを読んでおくこと。</p> <p>第2回 集団作り (担当：萩原、林、村田)          &lt;内容&gt; グループ学習の意味を理解し、コミュニケーションの大切さを知る。</p> <p>第3回 ブロック教材を使った活動① (萩原担当)          &lt;内容&gt; ブロック教材を使ってグループで協力して活動する活動を通して主に人間関係について保育の知識と技能を習得する。</p> <p>第4回 ブロック教材を使った活動② (萩原担当)          &lt;内容&gt; ブロック教材を使ってグループで協力して活動する活動を通して保育の知識と技能を習得する。</p> <p>第5回 ブロック教材を使った活動③ (萩原担当)          &lt;内容&gt; ブロック教材を使ってグループで協力して活動する活動を通して保育の知識と技能を習得する。</p> <p>第6回 地域の自然環境への関わり (萩原担当)          &lt;内容&gt; キャンパス周辺の田んぼや動植物の季節の様子を観察し、保育の知識と技能を習得する。          ICT機器を使って、情報の共有を行い認識を深める。”</p> <p>第7回 &lt;テーマ&gt; 手遊び・歌あそび① (林担当)          &lt;内容&gt; 手遊びや歌あそびを通して、保育・教育実習に必要な技能を修得する。</p> <p>第8回 &lt;テーマ&gt; 手遊び・歌あそび② (林担当)          &lt;内容&gt; 手遊びや歌あそびを通して、保育・教育実習に必要な技能を修得する。</p> <p>第9回 &lt;テーマ&gt; 保育教材製作① (林担当)          &lt;内容&gt; 保育・教育実習に必要な名札製作を通して、必要な技能を修得する。</p> <p>第10回 &lt;テーマ&gt; 保育教材製作② (林担当)          &lt;内容&gt; 保育・教育実習に必要な名札製作を通して、必要な技能を修得する。</p> <p>第11回 伝承遊び体験と保育① (担当：村田)          &lt;内容&gt; いろいろな型の紙飛行機を作成し、保育現場につなげる内容を学ぶ。</p> <p>第12回 伝承遊び体験と保育② (担当：村田)          &lt;内容&gt; コマ、けん玉、羽子板を使い、子どもの発育発達に必要な動作を学ぶ。</p> <p>第13回 伝承遊び体験と保育③ (担当：村田)          &lt;内容&gt; いろいろな鬼ごっこを通じて、年代別のルールづくりを学ぶ。</p> <p>第14回 ボール遊び (担当：村田)          &lt;内容&gt; ボールを使った保育の展開方法を学ぶ。</p> <p>第15回 学びの振り返りと発表 (担当：萩原、林、村田)          &lt;内容&gt; 各グループの体験内容や学びの成果を発表し、学びを共有したり、小レポートを作成したりする。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な保育に関する体験を通し、保育内容や保育展開の方法についての基本を知り、保育実践に応用することができるようになる。</li> <li>・子どもの遊びや保育の基本を知り、理論的な学びと関連づけることができるようになる。</li> <li>・グループでの活動を通して、保育者として必要となる基本的な資質や能力、保育者の役割等を知り、具体的な保育者像をもつようになる。</li> </ul>
授業の方法	<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び・歌遊びは、グループワークで行う。(林担当)</li> <li>・代表的な身体活動を伴う伝承遊びについて、グループディスカッションを取り入れて行う。(村田担当)</li> <li>・個別ワークとグループ別ワークを取り入れて行う。(萩原担当)</li> </ul> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーディエンスレスポンスシステム (ARS)により理解度を確認しながら、授業を進める。</li> </ul>
成績評価の方法	提出物(50%)、レポート(50%)による総合評価
教科書・テキスト	必要に応じて、適宜プリントを配布する。

参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 内閣府, 文部科学省, 文科省, 厚生労働省, 厚労省 チャイルド本社 2017年6月
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	必要に応じて、授業時間外にも教材研究や教材製作等に積極的に取り組む姿勢が求められる。
履修上の留意事項	授業で提示された準備物等を、各自で用意して授業に臨むこと。
オフィスアワー	各担当教員に確認し、事前連絡をして訪問すること。 第1回目で連絡する。
担当教員への連絡方法	萩原 4号館601 k-hagihara※osaka-aoyama.ac.jp 林 4号館608 f-hayashi※osaka-aoyama.ac.jp 村田 4号館502 tmurata※osaka-aoyama.ac.jp” (※を@に変える)
その他	3グループに分かれて授業を行う。そのため、上記授業内容は、グループにより実施順が入れ替わる。